



2025年3月3日発行

寒さもやわらかくなり、だんだんと春の訪れを感じます。

2月は、生活発表会・クラス懇談会など、お忙しい中時間を作って下さりありがとうございました。この1年間子ども達の成長を保護者の皆様と一緒に確認する事ができ、良かったなあと思います。またクラス懇談会のなかで、保護者の方々のお子様への思いや保育園への思いを聞かせて頂き、とても胸が熱くなると共に、これからは職員一同頑張っていこうと改めて強く思いました。

3月は、もうすぐ卒園を迎えるとんぼ組の子ども達との行事があります。とんぼ組さんとの別れを考えるととても寂しい気持ちでいっぱいになりますが、みんなでとんぼ組の子ども達との思い出をいっぱい作って、今まで保育園でたくさん頑張ってきたとんぼ組さんの事を、愛情いっぱいの拍手で小学校に送り出してあげたいなあと思っています。

季節の変わり目であり、また年度変わりの忙しい時期になりますので、子ども達も保護者の皆さまも体調にはくれぐれも気をつけて元気に乗り切っていきましょうね。

※3月21日・22日の保育協力日・休園日のご協力を頂きまして、どうもありがとうございます。

園長 山本真理子

☆苦情解決委員会☆

- ◎苦情解決責任者 山本 真理子
 - ◎苦情解決窓口担当 山本 真理子
 - ◎苦情解決第三者委員
畑 健次郎・花岡 尚樹・酒井 咲子
- ※意見箱は玄関ホールに設置、園に対する苦情やご質問・ご要望等を受け付けております。又、子育てやそれらに関するご相談も随時受け付けております。

《法人の理念》

本法人の理念「隣人愛」の精神に基づいて福祉サービスを必要とするすべての人に仕え、日常を支援し、常に人々の人権を護り、その人の尊厳を尊重します

《保育園がめざす子ども像》

- ◆自分で考え意欲を持って行動する子ども
- ◆相手を思いやることのできる子ども
- ◆健康で生き生きと遊べる子ども
- ◆豊かな感性を持ち、力いっぱい表現する子ども

社会福祉法人 日本コイノニア福祉会

中宮まぶね保育園

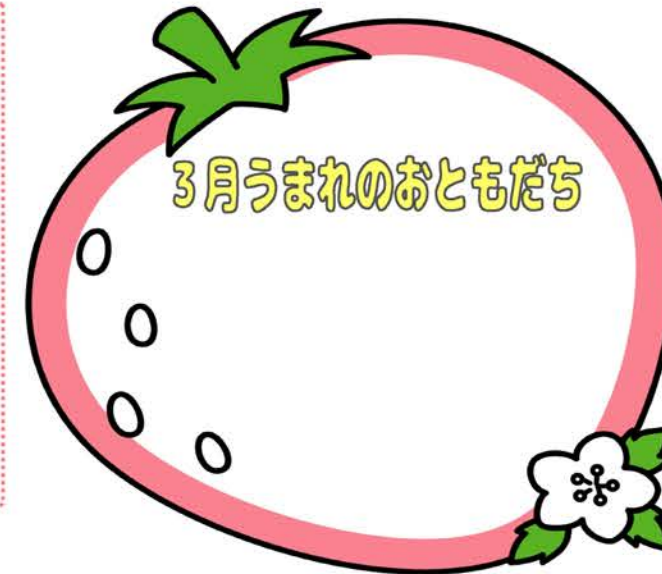
〒573-0011 枚方市中宮山戸町15-1
Tel/072-840-2780 fax/072-840-3212

E-mail nakamiya-encyo@koinonia.or.jp

URL <http://www.koinonia.or.jp/nakamiya/>

お知らせ

2025年度4月より「園だより」「給食だより」「保健だより」については、パピー配信のみにさせていただきます。「クラス便り」は、各クラスより随時配付、給食献立表は毎月配布させていただきます。よろしくお願い致します。



節分



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 ひなまつり	4 英語あそび教室 発育測定	5 ふれあい (地域子育て支援) 誕生日会	6 お別れ会	7 体育あそび教室 (2~5歳)	8
9	10 体育あそび教室 (2~5歳)	11 布団乾燥 ドッジボール大会	12 太鼓教室	13 リトミック教室 (2・3歳)	14 第10回 卒園式	15
16	17 体育あそび教室 (2~5歳)	18	19	20 春分の日	21 保育協力日	22 休園
23	24 体育あそび教室 (2~5歳)	25 英語あそび教室 布団乾燥	26 太鼓教室 無料法律相談	27 リトミック教室 (4・5歳)	28	29
30	31 体育あそび教室 (2~5歳)					

今月の聖書の言葉 3月号

「私はあなたと共にいる」(イザヤ書43章5節)

子どもを寝かしつけるのに、自分も一緒になって寝てしまったということは、よくあることかと思えます。「やらないといけないことはたくさんあるのに、一人で寝てくれたら楽なのに」とついつい思ってしまいます。少し大きくなって一人で寝るようになって、夜中にトイレに行く時など、「一緒に来て」と起こされることもあります。住み慣れた家でも、一人では心細いと感じるのでしょうか。危険を予測して、身を守るための本能でもあるのでしょうか、人間は本質的に怖がり寂しがり屋なのだと思えます。その一方で、一人ではできないことでも、一緒にいてくれる人がいたら頑張れるということもあります。例えば、苦手な予防接種も、病院の受診も、一人では受けられなくても、「一緒にいるから。大丈夫。怖くないよ」と励まし続けたらできた、という経験もあるのではないのでしょうか。聖書の中にも、同じ言葉が繰り返し登場しています。戦争や貧困、奴隷生活や遠い地への旅立ちなど、様々な困難や課題を前に、不安でいっぱいになっている人たちに対して、神様は何度も「恐れるな。私はあなたと共にいる」と語りかけ、励まし、背中を押しておられます。

この一年間子どもたちはそれぞれ成長して来ました。その背景には、いつも一緒にいてくれた保護者の方々や、園の保育者たち、そして神様の存在がありました。これからの日々もまた、子どもも大人も、共におられる神様に力付けられながら過ごして参ります。

チャプレン・牛田匡